

男性アイドルの関係性に友情構造を求める女性達 ——台湾におけるジャニーズ・ファンを事例として——

東京大学大学院 陳 怡禎

1 目的

この報告の目的は、台湾における二〇代～三〇代女性ジャニーズ・ファンをインタビューした結果に基づき、女性ジャニーズ・ファンが、「ジャニーズ」という趣味をきっかけにして構築する関係性について分析する。特に、女性ファン達が日常的にジャニーズ・アイドルを消費する際に、どのように「男性」アイドルを媒介としてファン・コミュニティへと結束し、その中でいかなる「友情像」をイメージし、それに重ね合わされるかたちで彼女たち自らの価値観を見出しているか、検討する。

2 方法

そこで、主にグループインタビューを中心に、研究を行う。本研究は二〇一〇年五月～八月をかけ、十三名の台湾人の二〇代～三〇代女性ジャニーズ・ファンを五つのグループにわけてインタビューを行った。そこに、主に二つの作業を行う。具体的に、本報告は特に「友情」というコードを注目し、女性ジャニーズ・ファンたちは、どのようにジャニーズ・アイドル同士の関係性に「友情」というイメージを読み取っているか、どのように自ら女性ファン同士の関係性に「友情」という価値観を大切しているか、解明していきたい。

3 結果

分析の結果、以下の二つの関係性構図を明らかにした。まず、台湾におけるジャニーズ・ファン達は、男性アイドルを媒介に、理想な関係性構図を投影している。彼女達が、ジャニーズ・アイドルの関係性に「仲の良さ」を欲求している。そこで、彼女たちが、「仲の良さ」を読みとる時、その視線は二つの方向に向けられている。一方では、アイドルの「関係性の広がり」に注目し、時にはジャニーズ事務所全体に広がるネットワークから、理想な関係性の構図を探索しようとする。他方では、自分が好きなアイドルが所属しているユニット・グループの内部関係性のみ、特別に仲の良さを読み取ろうとする。次に、ジャニーズ・ファン同士も二つの関係性に基づき、ファン・コミュニティを構築している。一方では、円滑な関係性を求めるために、台湾におけるファン・コミュニティ全体に及ぶ「広い」関係性を保とうとしている。他方では、主に「同担」を基準として構築されるサブ・コミュニティから、ファンとしての快楽を享受するのに留まらず、社会空間のなかの様々な関係性からも、ファン同士との関係性を特化させ、そこに精神的な満足を得られる「狭く深い」友情像を実現すると考えられる。

4 結論

以上から、台湾における二〇代～三〇代女性ジャニーズ・ファンを研究対象として取り上げて分析した成果、台湾の女性ジャニーズ・ファンの間では、男性アイドル同士を媒介としてそこに仲良しの関係性を見だし、愛好するとともに、同型の関係性を女性ファン同士の間でも実演しようとし、彼女たち自身の共同性を紡ぎだしていくことを明らかにした。

文献

Darling-wolf, Fabienne, 2003, 「Male Bonding and Female Pleasure: Refining Masculinity in Japanese Popular Cultural Texts」, 『POPULAR COMMUNICATIN』, 1(2) 73-88. ほか